

ビットコイン入門 —1円から送る・使う・投資する— vol.7

『支払いにも送金にも使える』

文 小田 玄紀 text by Genki Oda

用途については、法定通貨もビットコインも大きな違いはありません。決済や送金にも使えますし、投資もできます。

ただし、今のところ、ビットコインはどんな店でも使えるというわけにはいかず、そこが法定通貨との大きな違いといえます。また、法定通貨は銀行に預ければ利息が付きますが、ビットコインは銀行に預金することはできません。ただし、取引所でビットコインを買って保有しておくことはでき、取引所によっては「貸ビットコイン」(ビットコインを第三者に貸し出す)をすることで金利収入を得ることもできます。

ビットコインにお金としての信用性はある？

日本にいとあまり実感できませんが、諸外国においては自国の通貨に対する信用が低いことが、ままあります。たとえば経済不安のある国では、先月まで1万円で買ったものが今月は10万ないと買えないという状況が起きていることがあります。これはお金の価値が10分の1に下がってしまった、ということですが、一生懸命貯蓄して100万円貯めても、その実質的な価値が10分の1になっては困ります。

ビットコインは政府(国)が関与していませんから、国の経済状況や経済政策によって直接お金の価値が変わる心配がありません。そのため、経済不安のある国や、国のシステムが成熟し



Profile

株式会社ビットポイントジャパン 代表取締役社長  
1980年生。東京大学法学部卒業。大学在籍時に起業し、後に事業を売却した資金を元にマッキンゼー出身者らと共に投資活動を始め。  
「頑張る人が報われる」をコンセプトにして起業家や社会起業家の事業立ち上げ・経営支援を行う。株式、FX、債券などの投資にも精通し、仮想通貨取引にも携わる。2016年3月上場会社子会社として初の仮想通貨取引所であるBit Pointを立上げ、同社代表取締役役に就任する。

ていない国では、「自分の国の通貨より、仮想通貨のほうが信用できる」と考える人も少なくないのです。中国はビットコインの取引が活発ですが、そこには、人民元についての不安も関係しているのです。

仮想通貨はどれくらいの種類がある？

仮想通貨といえばビットコイン、というイメージがありますが、仮想通貨には600近い種類があり、その数は今後増えていくと思います。

ちなみに、仮想通貨とされるのは法定通貨と交換できるもので、クレジットカードの利用額に応じて付与されるポイントなどは仮想通貨ではありません。ビットコインは仮想通貨の中でも圧倒的な存在で、抜群の知名度と時価総額を誇っています。

ビットコイン以外の仮想通貨を「アルトコイン」といいますが、アルトコインの中で最も時価総額が大きいのは「イーサリアム」という仮想通貨です。ビットコインとは別のブロックチェー

ンを使って発行、管理されています。日本でも複数の仮想通貨取引所がイーサリアムを取り扱っており、売買が可能です。ビットコインとイーサリアムで、仮想通貨の時価総額の9割以上を占めています。

ほかにもグーグルが出資した「リップルコイン」や、日本初の「モナコイン」などがありますが、時価総額が大きいのもイーサリアムの半分以下、ビットコインの5%に満たない規模で、なかには時価総額が100万円に満たないアルトコインもあります。

発行規模が小さいアルトコインは売買するのも容易ではありませんし、信用性に不安が残るコインもあります。

まずは取引している人が多く、利用範囲も広いビットコイン、興味があればイーサリアムに広げる、というのがおすすめです。

「1時間でわかるビットコイン入門」  
「1円から送る・使う・投資する」  
(株式会社インプレスより)